

平成元年度山本賞の受賞者決まる

受賞者：中澤哲夫氏（気象研究所台風研究部）

対象論文：Tropical super clusters within intraseasonal variations over the western Pacific. (西太平洋の季節内変動中の熱帯域超雲団)

J. Meteor. Soc. Japan, vol. 66, 823-839.

推薦理由：周期30～60日の、いわゆる季節内変動と呼ばれる大規模な大気・海洋系の現象については1980年代に急速な研究の進展がみられ、熱帯海洋上の湿潤大気における赤道を中心とする大規模積雲対流活動の振舞として、多くの特性が明らかにされた。しかしながら近年に至るまで、この現象の解析的研究は主として東西波数1程度の地球規模現象としての側面に焦点をあてたものが主流であり、各観測時間の空間分布における主要なスケールである総観規模以下のじょう乱との関連については断片的な報告が散見されるのみであった。一方、最近の数値モデルを用いた研究は、季節内変動に伴う赤道域の積雲対流活動が水平スケール3000 km程度で東進する“スーパークラスター”により特徴づけられることを示し、解析的研究による当分野での検証が望まれていた。

中澤会員はかねてから衛星資料を組織的に用いて、

このスーパークラスターの存在を示す興味深い結果を公表してきたが、今回の対象論文においては3時間毎のGMS赤外データを用いてさらに研究を進展させ、熱帯西太平洋におけるスーパークラスターの構造を議論した。この研究により、水平スケール3000 km程度で東進するスーパークラスターは数百 km程度のより細かな水平スケールを持つクラウドクラスターの集団として定義されること、個々のクラウドクラスターは1～2日程度の寿命でスーパークラスター中を西進すること、等の新たな事実が明らかになった。この発見は季節内変動のメカニズムの解明に大きく寄与する重要な貢献である。中澤会員はさらにコンピュータ・グラフィックスを用いた結果の表現法にも工夫を凝らしており、多量の情報を処理する研究成果の効果的な表現法についても斬新なインパクトを与えた。このため彼の作成による結果の図表は、内容の重要性と相まって論文の印刷以前から多くの国際会議等で紹介されるに至っている。

このように当論文は、内容の重要性および成果の効果的な社会還元のみならず、寄与の大きなものであり、山本賞の対象として極めて適切である。

第5回オホーツク海と流氷に関する国際シンポジウムのお知らせ

趣旨：本シンポジウムは海洋、気象、水産、生物、工学、リモートセンシングなどの学際的分野の研究者、技術者が一堂に集まり、オホーツク海や氷海、寒冷海域での諸問題について論議するものである。

主催：オホーツク海・氷海研究グループ、紋別市・北方圏センター

会期：1990年2月4日（日）～6日（火）

開催場所：紋別市民会館および紋別文化会館

会議の主題：1. 氷海の物理環境と海洋生物
2. オホーツク海と親潮
3. オホーツク海沿岸の水産
4. リモートセンシングと測器
5. 大気-海水-海洋相互作用
6. その他

締切日：アブストラクト（200～300字）
1989年11月15日

最終原稿（図表を含み4ページ程度）

1989年12月20日

要旨集はシンポジウム開催時に参加者に実費で配付します。

シンポジウムの申し込み方法：参加希望の方は同封の案内状に添付された葉書に氏名、勤務先、連絡先住所、電話番号、研究発表のテーマ、希望する専門会議の部門番号（上記1～5または、6。その他に希望する場合はその主題名）を明記して下記宛にお申し込み下さい。ハガキは事務局にあります。

宛先：〒094 北海道紋別市南が丘 6-4-10
北海道大学低温科学研究所附属流氷研究施設 青田昌秋
Tel：(01582) 3-3722
Fax：(01582) 3-5319